

外科手術時における 医科歯科連携

連携



病院
(病院歯科)

地域の歯科医院
(かかりつけ歯科)

入院決定

入院前に
必要最小限の歯科
治療を行います

入院

口腔内チェック

- ・痛みがある歯、腫れている歯肉の応急処置
- ・グラつく歯の固定、もしくは抜歯
- ・歯石除去
- ・舌やお口の粘膜ケア
- ・入れ歯の調整や清掃
- ・歯を保護するマウスピースの作製
- ・歯磨き指導など

手術

術後の口腔内チェック

入院中はお口の中を清潔に保つことが大切です。もしお口の中に不具合を感じたら、すぐに相談してください。

退院

退院後の口腔ケアや
歯科治療

外来通院

口腔機能の回復や維持のため、継続してかかりつけ歯科に通院しましょう

全身麻酔による外科手術や がん薬物療法・放射線療法を 受ける患者さんへのお願い

手術・入院が決まったら

- ① 出来るだけ早く歯科医院に電話をし、予約をしましょう。
お口の状態によっては、治療に回数がかかる場合があります。
- ② 予約の際、必ず伝えてほしいこと
 - ・入院して手術をすること
 - ・入院する病院名
 - ・入院予定日
- ③ 病院からの診療情報提供書をお持ちください。

がん薬物療法、放射線療法、骨吸収抑制薬の使用が決まりましたら歯科医師に以下の項目をお伝えください。

- ・治療の開始時期
- ・治療の間隔
- ・病院からの診療情報提供書をお持ちください。

安心・安全のために
かかりつけ歯科医を持ちましょう

公益社団法人 神奈川県歯科医師会
<https://www.dent-kng.or.jp/>



一生涯で2人に1人は
がんにかかると言われています

がん治療とお口の 知られざる関係

周術期口腔機能管理

がん治療中の思わぬトラブルを予防するために手術や薬物療法、放射線療法の前後に歯科治療やお口のケアを行うことが重要です。

がん治療はチーム医療です



お口の問題で発生する、がん治療時のトラブル

全身麻酔による外科手術

お口の中が不潔な場合、細菌が全身麻酔の管を伝って身体に入り、肺炎の併発や傷口に感染することがあります。

全身麻酔の管を入れる時にグラついていた歯が抜けたり、詰め物・被せ物が外れる可能性があります。

予防するには？

お口の中の細菌を減らす。

グラついている歯を固定したり、手術用のマウスピースを作ります。

がん薬物療法

薬物療法による副作用として、お口の渇き、歯肉炎の悪化、口内炎、味覚異常が引き起こされ、食事が困難になり、栄養が不足することがあります。

予防するには？

口内炎を悪化させる原因を取り除いたり、痛みを抑える薬を使用することがあります。

放射線療法

首から上のがんで放射線療法を受けると、薬物療法と同じような副作用が現れます。唾液の減少により、むし歯が多発することがあります。また、治療後抜歯などによりあごの骨が壊死することもあります。

予防するには？

必要な歯科治療（抜歯、虫歯治療、入れ歯調整等）をあらかじめ行います。

金属の被せ物などが、放射線の乱反射を引き起こし被爆を増やす可能性があります。

乱反射防止用のマウスピースを作ります。

骨吸収抑制薬（骨粗しょう症薬）

骨吸収抑制薬は、がんの骨転移の進行の抑制、痛みの緩和に使われることがあります。副作用として、抜歯・慢性的な歯周組織の炎症・入れ歯による傷などが原因で、あごの骨が壊死することがあります。

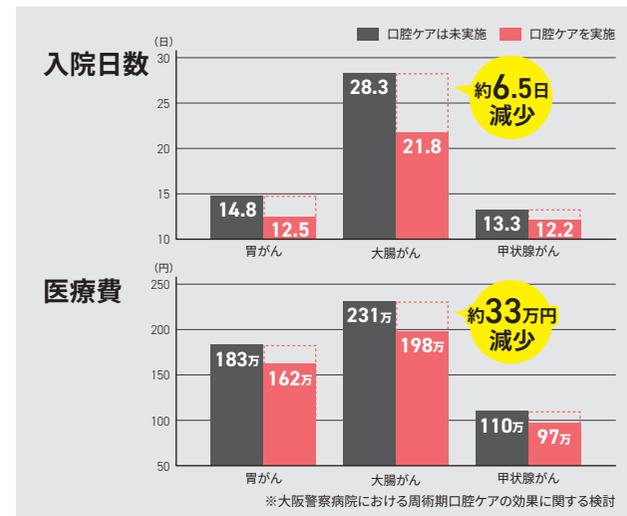
予防するには？

必要な歯科治療（抜歯、虫歯治療、入れ歯調整等）をあらかじめ行います。

全ての治療前に行う専門的口腔清掃と歯石除去は重要です

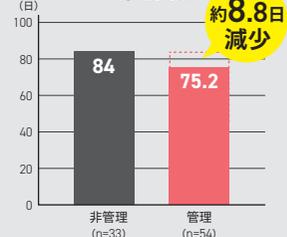
口腔ケアを行う事で入院日数を減少させ、医療費削減が期待できます。

いろいろながん患者さんを対象に、口腔ケアを行ったグループは、行わなかったグループに比べ、入院日数、医療費ともに減少しました。

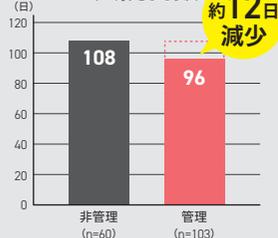


異なる治療法においても、口腔ケアを積極的に行ったグループは入院日数が減少しました。

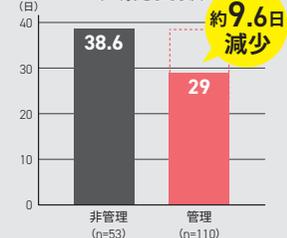
口腔がんの放射線治療入院日数



血液内科（白血病など）の入院日数



がん以外の外科手術の入院日数



※口腔機能の管理による効果千葉大学医学部附属病院における介入試験結果

治療内容については、かかりつけ歯科医にご相談ください